

令和二年度一般入学試験（Ⅱ期）問題 国語

埼玉医科大学短期大学

注意事項

- 一 解答は別紙答案用紙に書くこと。
- 二 解答を書く前に必ず受験番号・氏名を書くこと。

問題用紙五枚

答案用紙一枚

## 令和二年度一般入学試験(Ⅱ期)問題 国語

埼玉医科大学短期大学

### 注意事項

- 一 解答は別紙答案用紙に書くこと。
- 二 解答を書く前に必ず受験番号・氏名を書くこと。

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

日本語という言語は、日本人だけに通用する特殊な暗号のようなものだと考えられてきたように思えます。外国人は、暗号を「解読」できたとしても、言語の深い意味は、理解できないだろうと、たいていの日本人は思っていました。澄んだ水を通して池底の美しい石が見えているのに、水辺にとどまるほかない者は、底に沈む石のところまでたどりつけないのと同じです。外国人は、ただ池の端っこから(a)キョウウタンのまなざしでのぞきこむことしかできませんでした。つま先をちよつと水に浸けてみたり、場合によっては足を入れることぐらいはできたけれど。あるいは、立ち泳ぎもできるようになったかもしれない。ただ(1)深いところに潜水することはできなかったのです。

わたし自身は、かれこれ四五年もたくさんの日本語の本を読み、日本語でもものを書いてきましたが、ことあるごとに日本人から聞かれたのは、言われたことの意味が「ほんとうにわかるのか」ということでした。もちろんわかりますと断言すると、たいてい「ほんとうにわかるのかな?」と( A )に首をかしげます。

日本語がある種の暗号—日本人特有の、言わずもがなの( B )のコミュニケーション言語—だという考え方は、アジア大陸の文明の中心からはるか遠く、さらに中東やヨーロッパ、そしてアメリカ合衆国など他の文明から膨大な距離で隔たった島国で暮らす日本民族には非常にうまく機能してきました。日本人は、自分たちの文化を形作っている、美しい色とりどり無数の石の、実に細やかで精緻な特徴を表現するために、日本語独特の美的な言葉を創造することができたのです。たとえば、ものあはれ、わび、さび、和、(b)幽玄、雅、粹など、微細な違い一つひとつに言葉を与えました。このような言葉は、まさに他の言語に翻訳することがきわめて困難なものでしょう。たとえなんとか似たような言語を見つけて翻訳できたところで、たいていは日本語の深い意味あいを説明するため概念そのものをさらに説明づける必要にせまられます。たとえば、外国人が一つひとつの単語を理解できたとしても、日本人が言葉をつなぎあわせて使う独特の方法は、彼らには、「解読」不可能とは言わないでも、おそらく困難に違いないという日本人の思いこみも、(2)日本の風土とそれに基づく日本語の使い方によるものです。

説明が必要になるのは、美的な日本語の言葉だけではありません。ごく日常的な言葉の多くも、非常に「日本的」に見えます。たとえば、遠慮、気配り、(c)一期一会、恩返しなどなど。「情け」という言葉は、「翻訳不可能だ」と、ある日本女性にいわれたことがあります。(3)でも、彼女は日本語以外の言語のことなど、ほとんど知らずにそう言っていたのです。

しかし、言葉やフレーズ以上に、いかにも日本人特有に思われる表現モード—いや、( C )「非表現モード」といえるかもしれません—があります。それは、通常自分の感情を表に出さなかったり、一見曖昧な言葉でしか表現しないというモードです。まさにコミュニケーションのモードとして日本人が使うのは、相手と目を合わせたり、あるいはそらしたり、身振り手振りで行う表現ですが、それは多くの場合、本質的に他の民族と同じものではありません。

日本人は、こういったことで、日本語は曖昧な言語だと信じ込んでいます。誰もが断言してはばからない「曖昧さ」は、日本人の(d)デンケイ的な特徴を創り出した多くの行動様式とあいまって、(4)日本語が外国人にとつて最も習得するのが困難な言語だという定説を生むことになりました。

すべての言語は、日本語をふくめて、実のところ完全に中立的なものです。「中立」という意味は、ある言語が曖昧だとか、表現力に富む、あるいは音楽のように美しい、などと主張することは、( D )な仮定の上のことではしかない、という意味です。

人間は、どの国に生まれようとも誰もが感情をもち、考えていることを同じ広さと深さで表現できる能力をもっています。言語のなかには、地理的あるいは歴史的な背景によって特別な意味をもつ事柄に対して独自の語彙が発達してきたものもあります。

が、どの言語も等しく表現力の豊かさをもっています。そしてまた客観的に見て、すべての言語は同じように美しいのです。

日本人でないわたしたち外国人にとって学ぶのがむずかしいのは、日本文化の複雑さや、何世紀にもわたって進化をとげ、変化してきた日本人の行動様式から派生する多くの慣習です。現実的な言葉や表現そのものも変化をとげ、新たな意味や要素を取りこんできているのも当然です。

わびやさび、ものあはれといった言葉が一〇〇年前に感じられた意味は、江戸時代の人間には、そしてまた現在の日本人には異なっています。情けや義理、人情という言葉が明治時代の浅草で持っていた意味も、現代の池袋にいる人たちとは変わっているでしょう。

しかし、言葉そのものは、完全に中立的なものです。中立的だからこそ、意味が容易に変化していきます。言葉の中立性は、すべての言語に共通な特徴であって、人間は新たな意味を与え、古い意味を捨てることができます。言葉は空っぽの器のようなもので、それぞれの民族が、そこに自身の(5)染料や顔料を注ぎこみ混ぜ合わせて、その時代時代に、自分たち自身あるいは外の世界に向けて自画像を描くために使う、驚くほど多様な色彩のパレットを作り出します。

日本人が外の世界を理解するにあたって何が(e)シヨウガイになっっているのかというと、少なくとも巷でよく言われているような、外国語の運用能力の問題ではありません。おもなシヨウガイ物は、自分たちの言語の本質そのものに対する誤解なのです。

外から自分の言語の本質を理解し、判断することはどの民族にとっても簡単なことではありません。たとえば、日本語はむずかしい言語なのか？ 美しい言語なのか？ 特別な言語なのか・・・？ アメリカ人やカナダ人が、英語についてこういった質問に答えることができるでしょうか？ ベトナム人やイエメン人が、母語であるベトナム語やアラビア語がむずかしいのか、美しいのか、特別なのか、わかっているでしょうか？ おそらく彼らは（ E ）に、「もちろん、むずかしい、美しい、美しい、特別だ」と答えるでしょう。

日本の未来、日本人の可能性は、まさに日本語の将来にかかっています。そして、日本人が(6)どのように日本語をとらえ、使うのかということに。民族の可能性は、言語と、彼らの言語観のなかにあるのです。

驚くべき日本語 by Roger Pulvers. Reproduced with permission of the author

問一 傍線部(a) (e)の漢字はその読みをひらがなで答え、カタカナは漢字にせよ。

問二 空欄Aに入る適当と思われるものはどれか、次の中から選んで記号で答えよ。

- ア 恐ろしげ      イ いぶかしげ      ウ 悲しげ      エ 不安げ

問三 空欄BとEに入る適当と思われる四字熟語はそれぞれどれか、次の中から選んで記号で答えよ。

- ア 公明正大      イ 異口同音      ウ 以心伝心      エ 針小棒大      オ 傍若無人      カ 言語道断

問四 空欄Cに入る適当と思われるものはどれか、次の中から選んで記号で答えよ。

- ア そして      イ しかし      ウ むしろ      エ いかにも

問五 空欄Dに入る適当と思われるものはどれか、次の中から選んで記号で答えよ。

- ア 具体的      イ 客観的      ウ 感覚的      エ 主観的

問六 傍線部(1) 「深いところに潜水すること」とあるが、どういふことの比喩表現か。問題文中の言葉を使って十六字以内で説明しなさい。

問七 傍線部(2) 「日本の風土」とあるが、それはどういふものか。問題文中より二字で示せ。

問八 傍線部(3) 「でも、彼女は日本語以外の言語のことなど、ほとんど知らずにそう言っていたのです。」とあるが、これは「彼女」の『「情け」といふ言葉は、「翻訳不可能だ」といふ意見が、何であることを示しているか。問題文中より四字で示せ。

問九 傍線部(4) 「日本語が外国人にとつて最も習得するのが困難な言語だ」とあるが、これに対する筆者の考えとして、次の中から適当でないとと思われるものを一つ選んで、記号で答えよ。

- ア この定説は、日本人の自分たちの言語に対する誤解から生じたものである。
- イ この定説は、日本人の行動様式や慣習理解の難しさから生じたものである。
- ウ この定説は、日本語の特徴である繊細な美的言語に基づくものである。
- エ この定説は、筆者にとつては否定すべきものとされているものである。

問十 傍線部(5) 「染料や顔料」は、何の比喩表現か。問題文中より二字の熟語で示せ。

問十一 傍線部(6) 「どのように日本語をとらえ、使うのかということ」あるが、筆者はどうあるべきだと考えているのか。次の説明文の( )に問題文中の表現を使い、十五字程度補え。

「筆者は、日本語を( ) という考え方を改めるべきだと考えている。」

問十二 本文の内容と最も合致するものはどれか、次の中から選んで記号で答えよ。

- ア 日本語は、歴史的な背景によつて独自の变化をし、外部からの理解は不可能である。
- イ 日本語は、日本人特有な表現モードで表現する、曖昧な言語としての特徴を持っている。
- ウ 日本語は、他の言語と同じ広さと深さで、人間の感情、考えを表現している。
- エ 日本語は、言語の中立性から、どの時代からも影響を受けていないものである。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

知り合ひの青年に「本は読まないの？」と尋ねたら「あなたはダンスをしないんですか？」と聞き返されたことがあります。(1) 読書は人生の必修科目でダンスは(2)選択科目、というのほもう古い感覚らしい。

飲み会における「とりあえずビールで乾杯」ライフイベントとしての結婚が必修科目ではなくなったように、すべてが自由意思による選択科目という世界では、読書だけが特別ということもなくなるんだろう。

そう思いながらも、「読書は楽器やスポーツと同じように趣味の範囲であり、読んでも読まなくても構わないのではないか」と改めて問われると、(3)「賛成です」と答えることに不安ととまどいを覚えます。

(4)それはどうしてなのか、考えてみました。一つ思い当たったのは、読書という行為は(A)と密接に関わっている。

ということです。

読書が「楽器やスポーツと同じように趣味の範囲」というのは、或いはその通りなのかもしれませんが。「楽器」がなくても、そして読書がなくても、生きてゆくことはできる。その意味ではたしかにいずれも趣味の範囲と言えそうです。

でも、言葉そのものはどうなんだろう。それも趣味の範囲なのか。いや、他者とのコミュニケーションに必要というだけでなく、誰にも会わず一言も話さない日でも、私たちは心の中で無意識に言葉を使っています。それなくしては生きることができない、と思えるほどに。

映画などで、親から出生の(a)ヒミツ(「実はお前は私がお腹を痛めた子じゃないの」とか「お前たちは本当は血を分けた兄妹なんだ」とか)を告げられた主人公がショックを受けるというシーンをみることがあります。

それまで信じていた世界が親の言葉によって(b)覆ったのです。いや、正確にいうと覆ったのは世界でない。何故なら、親が子供に出生の事実を語る前と後で血の繋がりがDNAが変化したわけではないから。その意味では物理次元の世界は何一つ変わっていない。(B)、親の言葉で覆ったのは世界そのものではなくて、主人公の心の中の世界像ということになります。

ならば、私たちが一つの共通の世界に生きているというのは実は(c)サツカクで、本当は一人一人の内なる世界像を生きているに過ぎないんじゃないか。(C)、どうやら言葉はそのことに深くかかわっているらしい。

私がイメージしたのは(5)蜘蛛の糸と巣の関係です。蜘蛛が自分の糸だけで(d)編んだ巣の上で生きているように、我々も普段は意識していないけど、自らの内なる言葉が作り出した世界像の上で生きているんじゃないか、と。つまり(6)人間は言葉の介在無しに世界そのものを直に生きていることはいんじゃないか、と。

逆にいえば、言葉によって世界像は書き換えられることになる。エスカレーターに立っている時、その横をガンガンと大きな足音を立てて降りていく女性がいます。その度に苛々していたら、ある時、知人に「サンダルの構造上ああなっちゃう、カスタネットガールという種族なんです」と教えられました。(D)、ふしぎなことに、彼女たちと出会っても「あ、カスタネットガール」とむしろ面白く感じるようになりました。私が(e)ニンタイ強くなったわけではなく、(7)一つの言葉を知ったことによつて世界像が変化したのです。

この例からも分かるように、読書という行為だけが内なる言葉を養うわけではない。でも、本が言葉の、すなわち他者の世界像の塊であることもまた確かです。私が読書に特別な意味を見出したくなるのはそのためではないか、と考えました。

(穂村 弘『あなたの世界を変えるかも』 一部改変)

問一 傍線部(a)～(e)の漢字はその読みをひらがなで答え、カタカナは漢字にせよ。

問二 空欄Aに入る漢字二字の適語を問題文中より書き抜け。

問三 空欄B・C・Dに入る適当と思われるものはそれぞれどれか、次の中から選んで記号で答えよ。

ア つまり      イ ところで      ウ そして      エ すると

問四 傍線部(1)「読書は人生の必修科目」とあるが、「必修科目」とはどういう意味のものか。問題文中の言葉を使い二十字以内で説明せよ。

問五 傍線部(2)「選択科目」とあるが、その意味を問題文中の二字の熟語で示せ。

問六 傍線部(3)『「賛成です」と答えることに不安ととまどいを覚えます。』とあるが、何故か。それを説明した次の文の( )の中に入る表現を、問題文中より十五字以内で書き抜け。

「筆者は、読書に( )

( )から、不安ととまどいを覚えている。」

問七 傍線部(4)「それはどうしてなのか、考えてみました」とあるが、結論として、筆者は「読書」の意味はどんなことにあると言っているのか。問題文中の言葉を使い十字程度で説明せよ。

問八 傍線部(5)「蜘蛛の糸と巣の関係です」とあるが、「蜘蛛の糸」は何の比喩になっているか。問題文中より十字以内で示せ。

問九 傍線部(6)「人間は言葉の介在無しに世界そのものを直に生きることにはできないんじゃないか、」とあるが、どうしてか。次の中から適当と思われるものを一つ選んで、記号で答えよ。

- ア 人間は、言葉によって、他者とコミュニケーションをして生きているから。
- イ 人間は、言葉によって、物理的世界の真理を把握して生きているから。
- ウ 人間は、言葉によって、内的世界を作りそれに立脚して生きているから。
- エ 人間は、言葉によって、一つの世界を他者と共有して生きているから。

問十 傍線部(7)「一つの言葉を知ったことによって世界像が変化したのです。」とあるが、具体的にどんな言葉か答えよ。

問十一 本文の内容と最も合致するものはどれか。次の中から選んで記号で答えよ。

- ア 筆者は、読書とダンスを同列に置くことを結局承認している。
- イ 筆者は、自分を古い感覚の持ち主と認め、読書に価値を認めている。
- ウ 筆者は、言葉の働きに注目し、読書の意味を再確認している。
- エ 筆者は、他者の内的世界からの影響を避けようとしている。

問十二 君の大切にしている言葉を一つ挙げ、その理由を簡単に記せ。